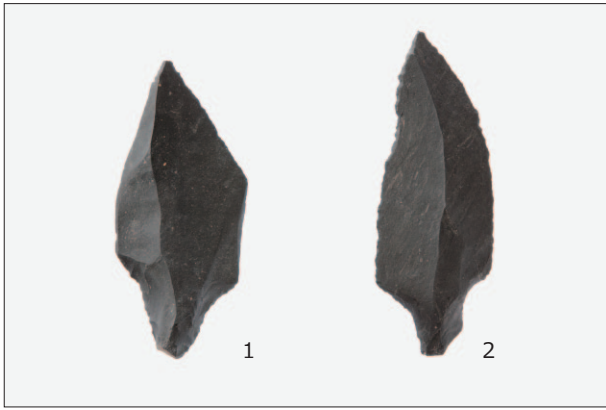


旧石器時代・石材学習キット一覽①



剥片尖頭器（はくへんせんとうき）

旧石器時代・石材学習キット 1, 2 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

石を割ってできた細長いかけら（剥片）の鋭い縁をそのまま利用し、槍先として使う石器。木の柄に取り付けやすいように加工されています。



角錐状石器（かくすいじょうせっき）

旧石器時代・石材学習キット 3, 4 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

石のかけらを打ち欠いて、三角錐状に加工した石器。剥片尖頭器と同様、柄の先に取り付けて槍先として使われたと考えられます。



ナイフ形石器（ないふがたせっき）

旧石器時代・石材学習キット 5～8 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

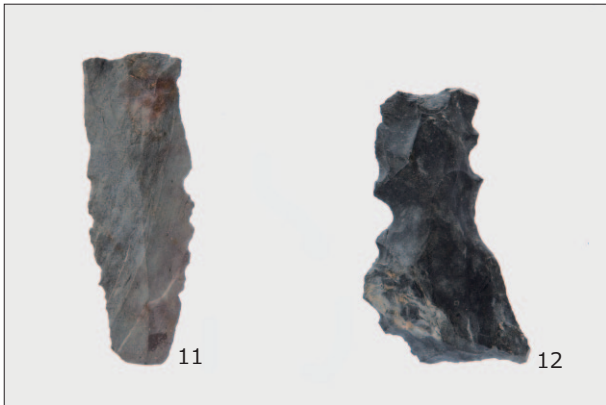
旧石器時代を代表する石器。剥片の片側を鋭利な刃として利用します。柄に取り付けて槍として、またはナイフのように手に握って、肉などを切った道具です。



搔器（そうき）

旧石器時代・石材学習キット 9, 10 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

剥片の一端に急角度の刃を付けた石器。獲物の毛皮に付いた脂肪や肉を掻き取るために使われたと考えられます。別名エンド・スクレイパー。



削器（さっき）

旧石器時代・石材学習キット 11, 12 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

剥片の側縁に刃を付けた石器。刃が鋸状に作られたものもあり、物を切ったり削ったりした道具と考えられます。別名サイド・スクレイパー。



錐状石器（きりじょうせっき）

旧石器時代・石材学習キット 13, 14 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

剥片の一部を鋭く尖らせて、錐状に加工した石器。毛皮などに穴を開けるために使ったと考えられます。

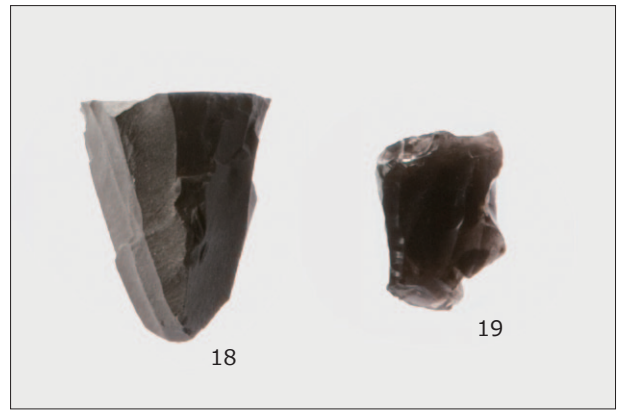
旧石器時代・石材学習キット一覽②



敲石（たたきいし）

旧石器時代・石材学習キット 15～17 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

縄文時代以降にみられる植物加工に使う道具ではなく、石器をつくる際のハンマーとして使われたと考えられます。



細石刃核（さいせきじんかく）

旧石器時代・石材学習キット 18, 19 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

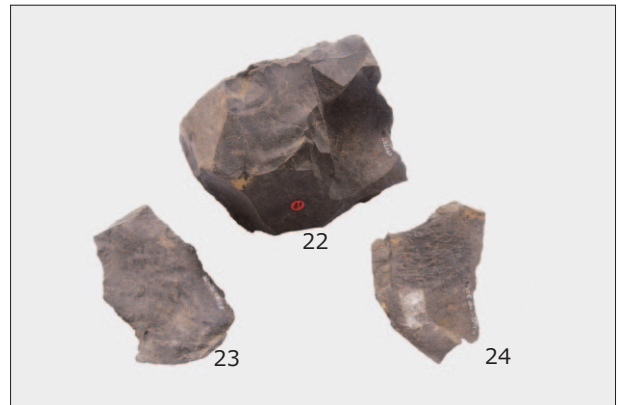
細石刃を剥ぎ取った後に残った礫の中心部です。細石核あるいは細石刃石核と呼ばれることもあります。



細石刃（さいせきじん）

旧石器時代・石材学習キット 20, 21 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

後期旧石器時代の終わりごろに使われていた細かな縦長の剥片（石刃）です。骨などで作った槍先の側面に複数個を埋め込んで、使われたと考えられています。



石核（せっかく）

旧石器時代・石材学習キット 22, 23 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

石器製作に必要な剥片を剥ぎ取った後に残った礫の中心部です。目的とする剥片に応じて様々な大きさや形がみられます。



碎片（さいへん）

旧石器時代・石材学習キット 25～40 上ノ原遺跡(宮崎市佐土原町)

石器をつくる際、まわりに飛び散った石のかけらです。これ自体は道具にはなりません、碎片が多く見つかった場所は石器の製作の場だと考えられます。碎片＝チップ。



黒曜石（こくようせき）桑ノ木津留産 《石材》

旧石器時代・石材学習キット 41～53 吉野第2遺跡(延岡市)

えびの市と熊本、鹿児島との県境付近の桑ノ木津留産の黒曜石（溶岩が急に冷えたため火山ガラスとなった岩石）です。石鎌や細石刃に多く使われました。

旧石器時代・石材学習キット一覽 ③



54~58

黒曜石(こくようせき) 姫島産 《石材》

旧石器時代・石材学習キット 54~58 吉野第2遺跡(延岡市)

姫島は大分県国東半島の北東に位置する黒曜石の原産地です。姫島産黒曜石は灰白色をしているのが特徴です。宮崎県では縄文時代の石鏃などを中心に使われました。



59~62

黒曜石(こくようせき) 腰岳産 《石材》

旧石器時代・石材学習キット 59~62 吉野第2遺跡(延岡市)

腰岳は佐賀県伊万里市にある山で、良質の黒曜石を多く産します。縄文時代には、遠く宮崎県まで人の手によって運ばれました。主に石鏃などに使われました。



63~65

ホルンフェルス 《石材》

旧石器時代・石材学習キット 63~65 吉野第2遺跡(延岡市)

頁岩や砂岩がマグマの熱を受けて変成した変成岩です。大きな剥片が得やすく、黒曜石産地が少ない宮崎では流紋岩と並ぶ石材として様々な石器に多用されました。



66

67

水晶(すいしょう) 《石材》

旧石器時代・石材学習キット 66,67 吉野第2遺跡(延岡市)

結晶面がはっきりしている石英を水晶といいます。良質の水晶は旧石器時代から石器の材料として、弥生時代以降は玉などに、中・近世以降は数珠などに利用されました。



68

チャート 《石材》

旧石器時代・石材学習キット 68 妙見遺跡(えびの市)

大昔の放散虫(SiO₂の殻を持ったプランクトン)が海底に降りつもってきた岩石。灰・緑・赤など様々な色があり、宮崎県では西臼杵郡を中心に産出します。旧石器・縄文時代には、石器の材料として多用され、8世紀以降は火打石としても使われました。



69

安山岩(あんざんがん) 《石材》

旧石器時代・石材学習キット 69 妙見遺跡(えびの市)

マグマが冷えてできた火山岩の一種です。宮崎では霧島火山や祖母山の周辺などで多い岩石です。古墳の石室や城郭の石垣によく利用されるほか、旧石器・縄文時代には、石斧や石鏃、石匙などに使われました。

旧石器時代・石材学習キット一覽 ④



70

頁岩 (けつがん)

《石材》

旧石器時代・石材学習キット 70

妙見遺跡(えびの市)

泥(粘土やシルト)が固まってできた堆積岩の一種です。圧力をうけ一定の厚さではがれやすくなっていることからこの名前がつけました。このように薄くはがれるものは縄文・弥生時代に打製石斧や磨製石鏃の材料として使われました。



71

流紋岩 (りゅうもんがん)

《石材》

旧石器時代・石材学習キット 71

妙見遺跡(えびの市)

宮崎県・大分県の県境にまたがる傾山付近に産出する火山岩の一種です。通常の流紋岩はその名のとおり流紋という縞模様があるのですが、石器に好んで使われたのは無斑晶流紋岩という流紋のない黒っぽい緻密な岩石で、旧石器時代のナイフ形石器などに多用されました。



72

砂岩

《石材》

旧石器時代・石材学習キット 72

妙見遺跡(えびの市)

海底に堆積した砂粒が長い年月の間に固まってできた堆積岩です。旧石器時代の敲石から現代の石垣まで広く利用されています。



73

石英 (せきえい)

《石材》

旧石器時代・石材学習キット 73

妙見遺跡(えびの市)

シリカ(SiO₂)を成分とする鉱物で、石英のうち結晶面があるものは水晶と呼んで区別しています。縄文時代の石鏃や江戸時代の火打石として使われていました。



74

チャート (赤色)

《石材》

旧石器時代・石材学習キット 74

妙見遺跡(えびの市)

大昔の放散虫(SiO₂の殻を持ったプランクトン)が海底に降りつもってできた岩石。灰・緑・赤・黒など様々な色があり、宮崎県では西臼杵郡を中心に産出します。えびの市では川内川の川原でチャートを拾うことができます。



75

尾鈴山酸性岩 (花崗閃緑斑岩 (かこうせんりょくはんがん))

《石材》

旧石器時代・石材学習キット 75

市納上第4遺跡(川南町)

遠見半島から尾鈴山周辺、木城にかけて産出する火山角礫岩、溶結凝灰岩、花崗閃緑斑岩、花崗閃緑岩の総称を尾鈴山酸性岩といいます。石器に最も多く使われる尾鈴山酸性岩は溶結凝灰岩です。この資料は花崗閃緑斑岩です。